再評価結果（平成２１年度事業継続箇所）

担　当　課：北海道開発局建設部道路計画課
担当課長名：桜田　昌之

事業名	一般道道名寄遠別線（なよろえんべつ）	事業区分	地方道	事業主体	国土交通省 北海道開発局
起終点	自：北海道雨竜郡幌加内町字蕗之台（ほつかいどううりゅうぐん ほろかないちょう ふきのだい） 至：北海道天塩郡遠別町字正修（ほつかいどうてしおぐん えんべつちょう せいしゅう）			延長	２１．９km

事業概要

名寄遠別線は、名寄市から幌加内町を経由し遠別町に至る延長約９０ｋｍの一般道道であり、このうち、幌加内町字蕗之台～遠別町字正修までの延長約２１．９ｋｍが開発道路に指定され、事業を進めています。当該道路は、交通不能区間の解消による新たな交通ネットワークの構築、高次医療機関へのアクセス向上、災害による孤立化集落の解消等に寄与する道路です。

Ｓ４９年度事業化	Ｈ－年度都市計画決定	Ｓ４９年度用地着手	Ｓ４９年度工事着手

全体事業費	約１９２億円	事業進捗率	７８％	供用済延長	１４．１km
計画交通量	６７０台／日				

費用対効果分析結果	Ｂ／Ｃ	総費用 (残事業)/(事業全体)	総便益 (残事業)/(事業全体)	基準年
	(事業全体)　１．０ (残事業)　４．６	５１/２３０億円 事　業　費：49/224億円 維持管理費：2.5/5.5億円	２３５/２３５億円 走行時間短縮便益：220/220億円 走行経費減少便益：3.9/ 3.9億円 交通事故減少便益：11/ 11億円	平成２０年

感度分析の結果　　残事業について感度分析を実施

交通量変動　：B/C = 5.3（交通量+10%）　B/C= 4.3（交通量-10%）
事業費変動　：B/C = 4.6（事業費+10%）　B/C= 5.3（事業費-10%）
事業期間変動：B/C = 4.7（事業期間+1年）　B/C= 4.9（事業期間-1年）

事業の効果等

・国土・地域ネットワークの構築（現道等における交通不能区間を解消する）
・安全で安心できるくらしの確保（二次医療施設へのアクセス向上が見込まれる）
・災害への備え（近隣市へのルートが１つしかなく、災害による１～２箇所の道路寸断で孤立化する集落を解消する）　他３項目に該当

関係する地方公共団体等の意見

名寄市、遠別町をはじめ周辺１市６町１村の首長で構成される開発道路名寄・遠別線建設促進期成会他４団体より、事業促進の要望を受けている。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

平成１５年度に北海道縦貫自動車道が士別剣淵ＩＣまで供用。平成１８年度に国道４０号名寄バイパスが智恵文ＩＣまで供用。平成２０年に「萌える天北オロロンルート」がシーニックバイウェイ北海道の指定ルートに認定されているほか、平成５年には道の駅「富士見」が、平成２０年には道の駅「もち米の里☆なよろ」がオープン。

事業の進捗状況、残事業の内容等

昭和４９年度より工事着手し、用地進捗率７６％、事業進捗率７８％となっている。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

引き続き事業が順調に進んだ場合、平成２０年代中頃の事業完了を予定している。

施設の構造や工法の変更等

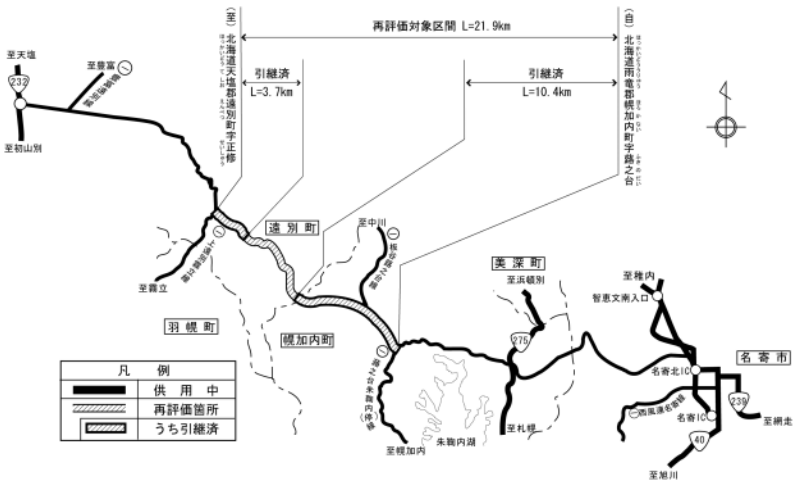
鋼橋の新形式、リサイクル緑化工法の採用等によるコスト縮減に取り組んでいる。

対応方針　事業継続

対応方針の決定理由

以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。